



タイCIRトックさん(写真左)=タイのアジア言語学協会、ワーゲーウェイット会長視察の通訳案内、9月14日北工学園で

今、生き生きと

東川町国際交流員(CIR)
スミッタ・エクワニットさん

今年7月まで務めていた
シッシャノック・ホン
ティップラットさんに代
わって、2代目のタイ人C
IR。着任して約2カ月。
「今まで見た日本とは違う。
タイにはない雪の中の温か
さ、どこに行っても、いつ
見ても写真になる景色が魅
力」と町の雰囲気気が気に
入ったよう。初級タイ語講
座では「タイの話、日本と
の違いのおもしろさを話し
たりできるんじゃないかな」
と今月18日からの再スタ
ト準備を進めています。

「自分の国の良さは何かを考
える良い機会でもあるので、異文化
の人に自分の国のことをどう伝え
ればいいのかを考えています。東川
の良さもタイ人に伝えたいので、
これからどんどんお互いの国の素
敵などところを見つけていきましょ
う」。

タイでは長く日本企業の現地会
社で通訳、コーディネーターとし
て勤め、高校、大学時代に2度の
日本留学も経験しました。そのせ
いか日本語の発音は自然です。3
年前、CIRとして日本で働くこ
ろという働き方があるのを知って、そ
の機会を待ってきたそうです。

「その時はタイの日本企業正社
員でした。だから応募できなかった。
でも2年前にフリーランスにな
ったので、日本のほかの県でな
く、北海道で働くという募集を見
て、すぐに応募しました」。

北海道大学留学の思い出が深
かったようです。「北海道ならど
こでも働きたい」「北海道は大好
きで、来る前から出来る限り長く
いたい」と。

「高校生で留学してきた時は富
士山に登りました。大学時代には
立山にも登りましたよ」。その時
山の温泉にも入ったそ
うで、雲が目の前に広
がっていて、『天国で
温泉に入ってる！』と
最高でした」。

◇
小さな時から日本が
大好きだったそう。
「小学校1年生のころ、
テレビで日本のアニメ
番組を見てみると、ガ
イドをしていた私の叔
父さんがやってきて、
その主題歌とか字幕を
読めたんですよ。『す
ごい！』って感激しま
した。『日本語覚えて
い。話せるようになり



現地通訳として福岡県から訪タイしていた日本人視察団に
同行してお宅訪問(2016年1月、バンコク郊外で)

たい』と思いました」。
5年生ごろにはお小遣いをため
て本を買い、叔父さんに日本語の
意味を聞くようになっていたそう
です。

「その時買った本は、ガイドさ
んが日本語を覚えるための本でし
た。ひらがなも自分で勉強しまし
た」と小学生の時から日本語への
思いが強かったそうです。
強い思いが実現し、着任早々、
くらし楽しくフェスティバルの
「国際キッチン」コーナーでさっ
そくタイ料理を作って来場客にア
ピールしました。「こういう仕事
もCIRの仕事の一つなんだな、
と思いました」。

スミッタ・エクワニットさん

東川町国際交流員(CIR)。プーケット県出身、35歳。通称トックさん。
タイ国立タマサート大学(日本語学科)卒。日本語能力試験1級(2006年)、
英語検定TOEIC760点取得。大学卒業後、国際交流基金バンコク日本文化セン
ターでタイ人日本語教師養成のための日本語教師、バンコク日本人学校でタイ
語教師勤務を経て、日系企業のバンコク支社、工場、コンビニチェーン、日
タイ姉妹都市の行政企画作成など、フリーランスの通訳業務経験多数。

◇
国際交流員(CIR)とは、JETプログラム=日本の総務省、外務省、文部科学省、(財)
自治体国際化協会(東京)が行う語学指導等を行う外国青年招致事業の一職種。各地の自
治体で国際交流事業に従事します。ほかに外国語指導助手(ALT)、スポーツ国際交流員
(SEA)の2職種があります。

タイから来た日本語短期研修プログラムの説明会(研修生にタイ語で
講師の説明を伝えています) 11月3日、森林体験研修センター

